

## 平成 29 年度第 1 回上越市女性サポートセンター運営委員会 会議録

### 1 会議名

平成 29 年度第 1 回上越市女性サポートセンター運営委員会

### 2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成 28 年度事業実施報告について（公開）
- (2) 平成 29 年度事業について（公開）
- (3) その他について（公開）

### 3 開催日時

平成 29 年 6 月 14 日（水）午前 13 時 25 分～14 時 40 分

### 4 開催場所

女性サポートセンター 第 1、第 2 講習室

### 5 傍聴人の数

0 人

### 6 非公開の理由

なし

### 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：片所真理子（副委員長）、齊京貴子（委員長）、竹内隆志、竹山貞子、  
田中由美子
- ・事務局：産業振興課…宮崎課長、水澤副課長、玉井係長、神林主事  
社会教育課…川上参事、山本係長、丸山主事

### 8 発言の内容

#### (1) 平成 28 年度事業実施報告について

※事務局より一括説明

#### ○質疑・意見等

竹山委員：講座の申込みが定員に達しなかった理由を知りたい。

事務局：家計と暮らし講座は、広報じょうえつのみで周知し、他の方法での PR を行わなかったことが原因である。その後、実施した講座では、新聞など

でお知らせを掲載したことにより、申込は増加した。

竹山委員：講座は全て午前中に実施しているが、開催時間は妥当か。

事務局：女性サポートセンター事業に限らず事業全般に言えるが、午後より午前が参加しやすいとの意見が多いことから、午前に実施している。

片所委員：「女性サポートセンター」から「女性講座」として案内をしているので、男性が参加しづらい状況だと思う。今後その問題をどうしていくか。

竹内委員：確かに参加しづらいと思うが、「女性」という文字をとってしまうと、おそらく他の社会教育に係る講座等とすみ分けができなくなる。働く女性のためという目的があるので、このような形にならざるを得ないと思う。

片所委員：世の中のいろいろな活動を見ても、男性の参加が少ないのは自然なことだと思うが、男性が入っても大丈夫だという姿勢をもっと出していくべきだと思う。

齊京委員長：貴重なご意見であることから、事務局で検討していただきたい。チラシでは、女性講座と前面に出ていた訳ではなかったと思う。

事務局：家計と暮らし講座にはチラシに女性講座との記載はなく、この講座だけは男性も参加可能だったが、「女性サポートセンター事業」の名称を出したことから、参加できないと思った方がいたかもしれない。

## (2) 平成 29 年度事業について

### ※事務局より一括説明

#### ○質疑・意見等

竹山委員：過去のマナー講座に参加したが、内容はよかった。今回のマナー講座では新たにテーブルマナーが入っており、企画はよいと思う。

片所委員：かがやきアップセミナーに関心があり参加しようと思っていたが、予定が合わなかった。参加者が少ないのは、予定が合わないだけではないか。前回のヨガの講座は定員 20 人に対し、申し込み 35 人、参加者は 20 人以下であり、当日の参加が減ることも考慮し、参加者は定員以上にしてもよいと思う。

田中委員：定員は、会場の収容人数に対して少な目に設定されているのか。

事務局：会場の収容人数や講師が一度に教えられる人数にもよる。今回は講師に相談した結果、定員 20 人のままとした。

田中委員：6月1日号の広報じょうえつにお知らせを出した後、現在どれぐらいの申込があるのか。

事務局：定員 20 人のところ、現在 12 人程度の申込がある。

田中委員：今回は女性対象と明記されているのか。

事務局：明記していない。

齊京委員長：6月1日号の広報じょうえつだけでは講座の情報を得られない人もいる。今後、定員の空きに対してどのように募集をしていくのか。

事務局：公民館にチラシを配置し、新聞にも掲載依頼予定である。

田中委員：チラシはリージョンプラザ、市民プラザにも配置しているのか。

事務局：公民館のみに配置している。

竹山委員：そもそも女性サポートセンター運営委員として今後どう関わっていけばよいか。

齊京委員長：女性サポートセンター運営委員の役目を今一度お聞きしたい。

竹山委員：条例などの説明もないため、疑問を感じる。

事務局：今後の会議の運営方法について検討が必要である。女性サポートセンター運営委員という立場で忌憚のない意見をいただくのが、本会議の目的であり、女性の地位向上や福祉の増進などについて議論いただきたい。今回の会議の反省も含め、事前に資料をお送りした上で、次回の会議を開催したい。

齊京委員長：変えていける所は少しずつ変えてほしい。

### (3) その他

事務局：今後、女性サポートセンターとしての在り方について皆様とともに検討していきたい。

竹内委員：女性サポートセンターがオーレンプラザに移行するには、条例の変更が必要ではないか。

事務局：すでに条例を改正しているため、改正後の内容について資料を示す。

竹内委員：指定管理者制度になるのか。

事務局：当初は直営の予定である。

竹内委員：最初は教育委員会が公民館として直営で運営し、その一部を女性サポートセンターとして活用するということか。

事務局：オーレンプラザは、中央公民館としての機能があるため、一部を女性サポートセンターとして活用することではない。女性サポートセンターという機関・在り方について、今後、皆さんの意見を聞きながら一緒に考えていきたい。

齊京委員長：「女性サポートセンター」という名称を残していかなければならない理由はあるのか。

事務局：当初は「働く婦人の家」という名称でスタートしたが、社会情勢等の変化に合わせて、「女性」という名称に変わった。変遷も踏まえた中で、委員の皆様の見解も参考にしながら、議論させていただきたい。

竹山委員：次回の会議の前に、委員として女性サポートセンター事業に出席の方がよいと感じる。何の情報もなければ来年の方向性も考えられない。また、可能であれば、次回の委員会の前にオーレンプラザの見学をしたい。

事務局：当日、利用されていない部屋があれば、是非ご覧いただきたい。

片所委員：運営委員会を牽引してこられた前委員長が、女性の地位向上に向けて頑張ってこられた。今までの歴史を消してしまうわけにいかないという思いがある。名前を残しつつも、いろいろな人が参加できるようにしていくとよい。

事務局：なくすということではなく、次に向かって前向きに考える運営委員会にしていきたい。

齊京委員長：前委員長の女性が輝いていくために、女性が働いていくためにという思いを残しながら、今後の女性サポートセンターを考えていければよいと思う。

9 問合せ先

上越市産業観光部産業振興課 TEL : 025-526-5111

E-mail : sangyou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。